

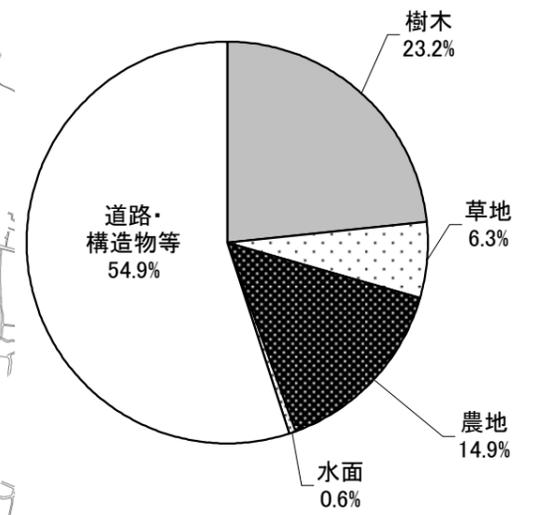
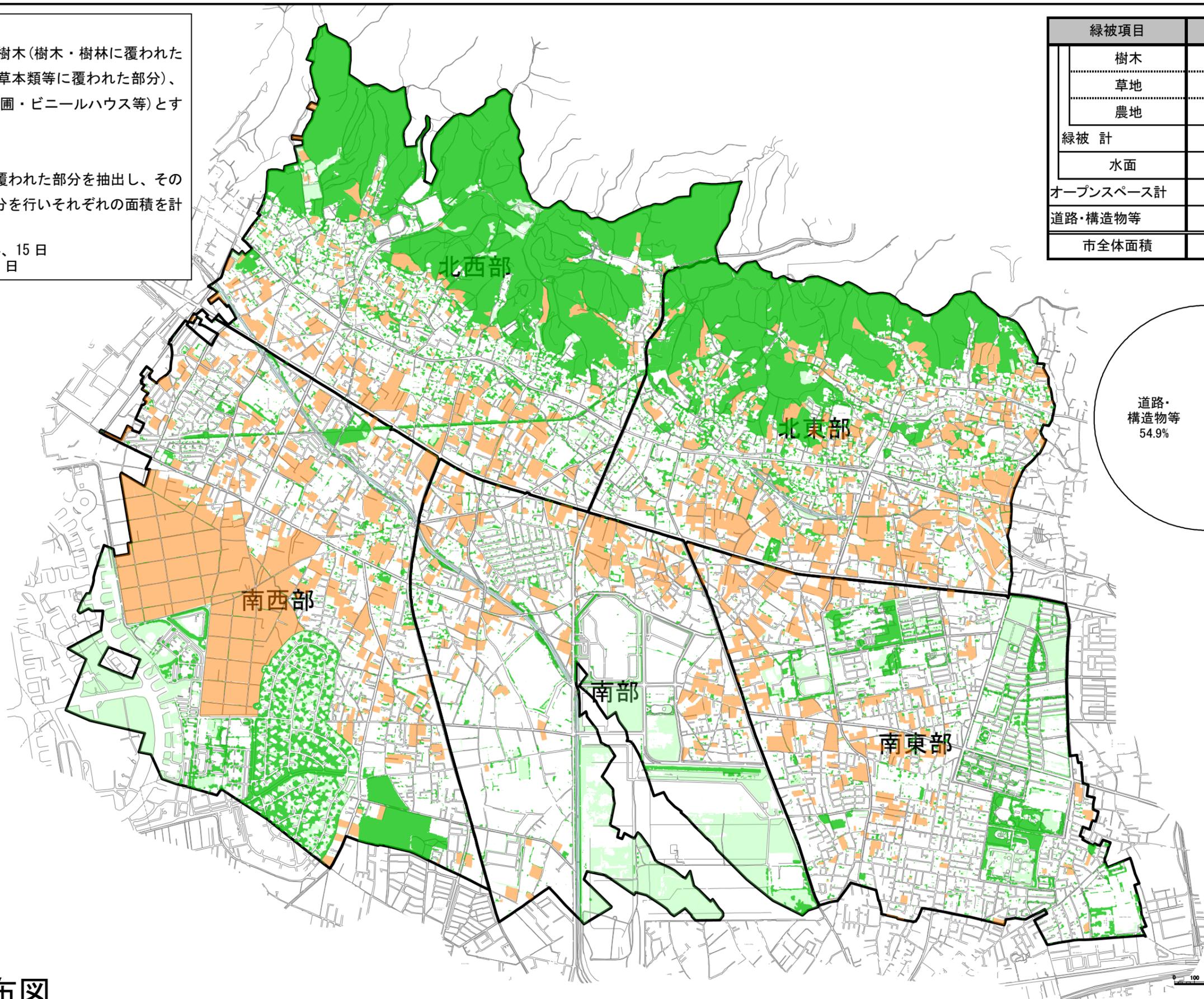
# 緑化審

**緑被とは**  
 緑に覆われた部分で、樹木(樹木・樹林に覆われた部分)、草地(農地を除く草本類等に覆われた部分)、農地(田・畑・果樹園・苗圃・ビニールハウス等)とする。

**緑被調査とは**  
 衛星画像を用いて緑に覆われた部分を抽出し、その後樹木、草地、農地に区分を行いそれぞれの面積を計測した。

撮影日：2009年11月4、15日  
 2011年8月11日

| 緑被項目      | 面積(ha)    | 割合    |
|-----------|-----------|-------|
| 樹木        | 356.905   | 23.2% |
| 草地        | 96.785    | 6.3%  |
| 農地        | 229.526   | 14.9% |
| 緑被計       | 683.215   | 44.5% |
| 水面        | 9.646     | 0.6%  |
| オープンスペース計 | 692.861   | 45.1% |
| 道路・構造物等   | 844.139   | 54.9% |
| 市全体面積     | 1,537.000 | —     |



**緑被区分**

- 樹木
- 草地
- 農地
- 水面



0 100 200 400 600 800 1000m

1:20000

緑被分布図

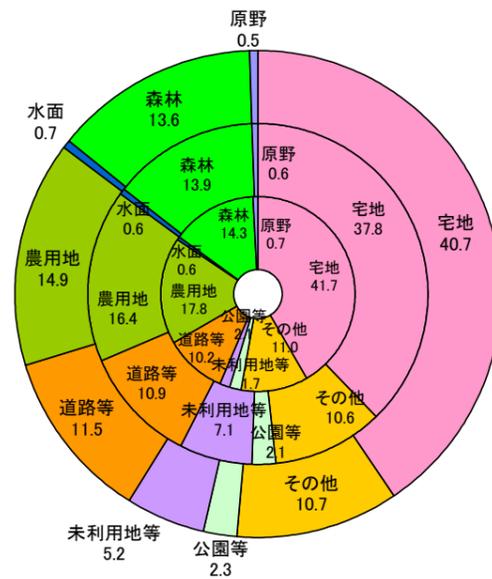
## 土地利用構成の推移（平成9年→平成14年→平成19年）

東京都土地利用現況調査結果より平成9年、平成14年、平成19年の土地利用比率の推移をまとめた。

- 村山団地、日産跡地により未利用地等の比率は変動し、その影響で宅地の比率も変化した。
- 道路率は10.2%→10.9%→11.5%と増加している。
- 公園率は2.1%→2.1%→2.3%と微増している。
- 農用地率は17.8%→16.4%→14.9%と減少している。
- 森林率は14.3%→13.9%→13.6%と微減している。

図一 土地利用現況土地利用比率の推移（単位%）

内側：平成9年  
中間：平成14年  
外側：平成19年  
東京都土地利用現況調査土地利用比率より



## 緑被現況の推移（平成8年→平成23年）

現行計画策定時(平成8年)と現在(平成23年)の緑被面積の比較を行った。

- 市全体の緑被面積は約73ha増加し、緑被率は40.0%から44.5%となった。
- 地域別では北東部、北西部、南部での増加率は約8%であったが、南東部の増加率約2%、南西部では減少であった。
- 南西部、南東部では農地の減少が大きいと考えられる。特に新青梅街道周辺の減少が大きい。
- 南部は日産跡地の草地が増加要因と考えらるが、伊奈平二、三丁目では樹林地の減少がみられる。
- 北西部と北東部では狭山丘陵周辺の屋敷林等の樹林は、市の南側の地域と比較して変化が少なく、樹木の生長と調査精度の向上により増加したと考えられる。

表一 緑被現況の推移

| 地域  | 緑被(平成8年) |      | 緑被(平成23年) |      | 緑被(増減) |      |
|-----|----------|------|-----------|------|--------|------|
|     | 面積(ha)   | 率(%) | 面積(ha)    | 率(%) | 面積(ha) | 率(%) |
| 南西部 | 175.405  | 48.0 | 175.047   | 47.9 | -0.357 | -0.1 |
| 南東部 | 68.882   | 23.9 | 73.646    | 25.5 | 4.764  | 1.6  |
| 南部  | 59.613   | 20.7 | 81.647    | 28.3 | 22.034 | 7.6  |
| 北西部 | 173.039  | 56.8 | 196.714   | 64.6 | 23.675 | 7.8  |
| 北東部 | 133.502  | 46.0 | 156.161   | 53.8 | 22.659 | 7.8  |
| 市全体 | 610.440  | 40.0 | 683.215   | 44.5 | 72.774 | 4.5  |

## 公共用地の緑被状況

衛星写真から判読した緑被現況について、公共用地の緑被状況の集計を行った。

- 公共用地、公園、社寺境内の緑被率が40%台と高かった。
- 学校は18.7%、道路は14.0%であった。
- 

表一 公共用地の緑被現況

| 土地利用分類 | 面積(ha)  | 緑被(ha) | 緑被率(%) |
|--------|---------|--------|--------|
| 公共施設   | 31.346  | 12.904 | 41.2   |
| 学校     | 44.640  | 8.327  | 18.7   |
| 公園     | 34.684  | 15.500 | 44.7   |
| 道路     | 176.116 | 24.687 | 14.0   |
| 社寺境内   | 6.280   | 2.813  | 44.8   |

## 民有地の緑被状況

衛星写真から判読した緑被現況について、民有地の緑被状況の集計を行った。

- 商業施設、併用住宅、工業施設の緑視率は低く、10%未満であった。
- 独立住宅、集合住宅の緑被率は比較的高く、17%台であった。
- 独立住宅の緑被は庭木その他、農家住宅等の屋敷林が含まれている。
- 集合住宅の緑被の主なものは村山住宅の樹木である。

表一 公共用地の緑被現況

| 土地利用分類 | 面積(ha)  | 緑被(ha) | 緑被率(%) |
|--------|---------|--------|--------|
| 商業施設   | 63.182  | 4.425  | 7.0    |
| 独立住宅   | 309.750 | 54.564 | 17.6   |
| 集合住宅   | 66.514  | 11.312 | 17.0   |
| 併用住宅   | 22.058  | 1.425  | 6.5    |
| 工業施設   | 78.698  | 5.209  | 6.6    |

## 緑視率

緑視率調査では道路等で撮影した写真において、樹木等の緑の占める面積割合を計測した

- 157地点、347箇所の平均緑視率は14.6%であった。平成8年は15.6%より約1ポイント減少した。
- 樹木・樹林の消失、建て替え等に伴う庭木の減少が要因である。
- 平成23年ではみどりが少ないと感じる緑視率5%未満の地点は90箇所、みどりが多いと感じる緑視率25%以上の地点は53箇所であった。

【緑視率増加例】



平成8年 緑視率8%



平成23年 緑視率23%

【緑視率減少例】



平成8年 緑視率48%



平成23年 緑視率23%